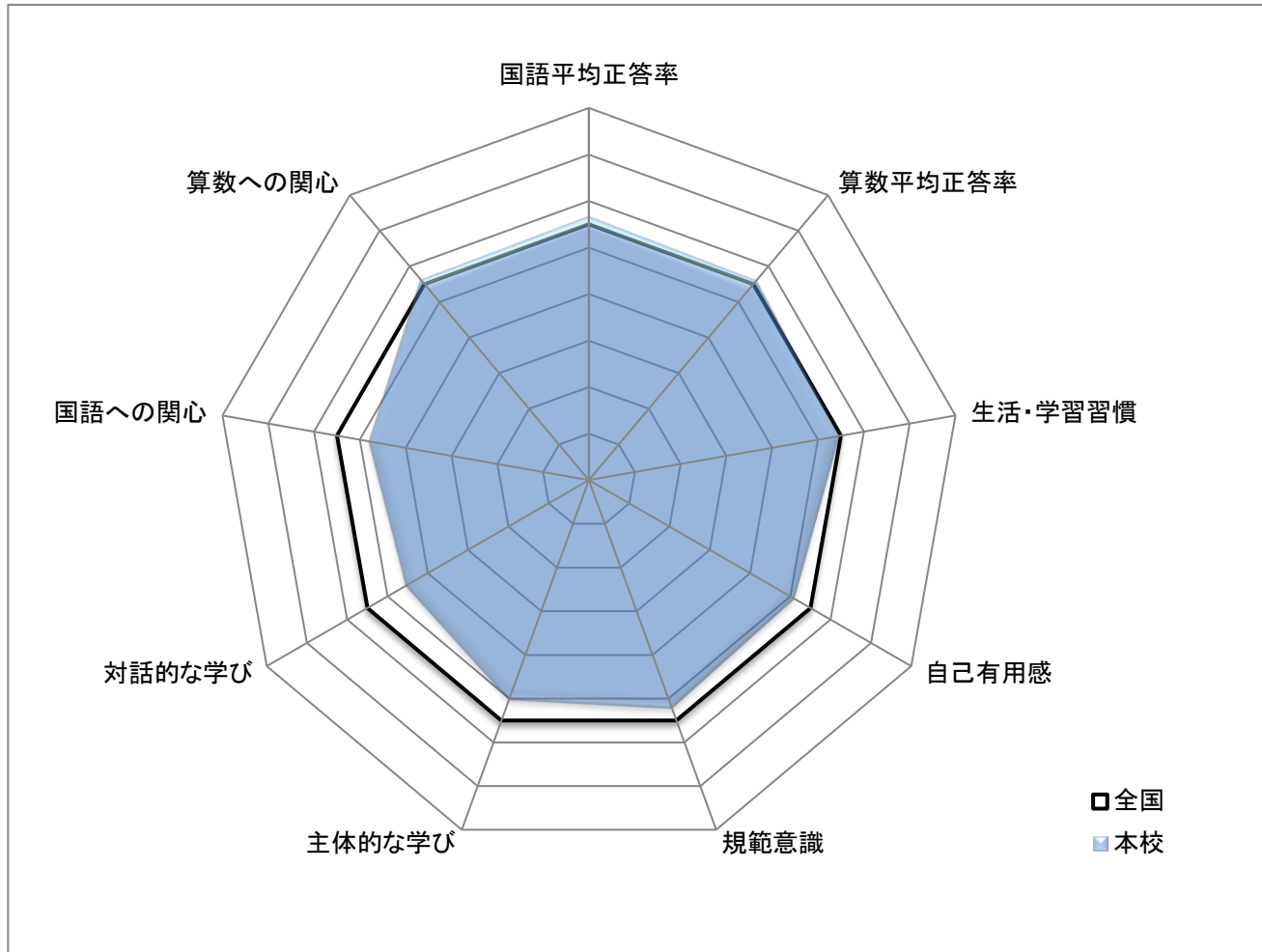


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語（全体）	全国対比+2.2	都対比-1.2
（話聞）	-6.0	-6.8
（言語）	+8.6	+6.4
算数（全体）	全国対比+1.4	都対比-2.0
（計算）	-1.5	-5.0
（量と測定）	+7.3	+2.7

国語に関しては、言語事項の知識が「話すこと聞くこと」「対話的な学び」へとつながっていないことがわかる。また、算数に関しては、「計算技能」の習熟にやや不足が見られる。

《授業改善のポイント》

アンケート項目であった学級活動や道徳、総合的な学習の時間における主体的な態度は、より対話的な姿勢が求められる。国語における「話すこと・聞くこと」の力を高めること、言語知識の定着を「対話的な学び」につなげ、全教科に広げること、算数における計算技能の定着が課題となる。

国語・・・①国語への関心を高める工夫。
 ②話し手の意図を捉えて聞く練習。
 ③聞き手の立場に立った発表の練習。
 ④ペア・グループ学習の機会を増やす。

算数・・・①算数タイムを利用した四則計算の練習。
 ②家庭学習の課題を計算中心にする。

《チャートの特徴》

国語、算数の教科に関する正答率は、全国平均を上回っている。反面、質問紙による児童アンケートから分析される「主体的な学び」「対話的な学び」「国語への関心」が全国平均を大きく下回っている。また、「規範意識」「自己有用感」がやや下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

言語活動が学力に大きく関わることを家庭・地域と共有した上で、より家庭内でのコミュニケーションを促していく。